



### 3. 昭和30年代から昭和40年代までの高度経済成長期

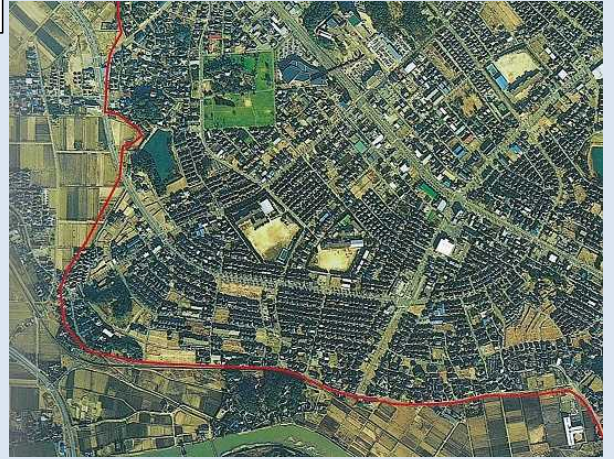
地方から都市圏への大規模な人口移動で千葉県の人口は昭和30年の約220万人から昭和49年には約399万人に増加しました。このような社会経済情勢は住宅問題や環境問題を生じさせることになりました。

これらの問題を解決するために、市街地を計画的に整備し、街路や駅前広場などの公共施設の整備と土地利用の増進を図るため、**昭和29年**に制定された**新土地区画整理法**に基づき、県内で土地区画整理事業が大規模に実施されています。これまでに実施された面積の約45%にあたる8,230haがこの期間に実施されています。



施行前（昭和41年）

市原市国分寺台付近



施行後（平成13年）

上記写真は「国分寺台 事業記念誌」より引用

### 4. 現在の千葉県

県内ではこれまでに約18,200ha（用途地域指定の約22%）の事業が実施され、人口増加に対して計画的な受け皿づくりが行われてきました。

現在も県による土地区画整理事業が4地区で実施されています。

<つくばエクスプレス沿線>

平成17年に開業したつくばエクスプレス沿線地域では鉄道とあわせて沿線地域の基盤整備を一体的に進めています。

- ・ 柏北部中央地区
- ・ 木地区
- ・ 運動公園周辺地区

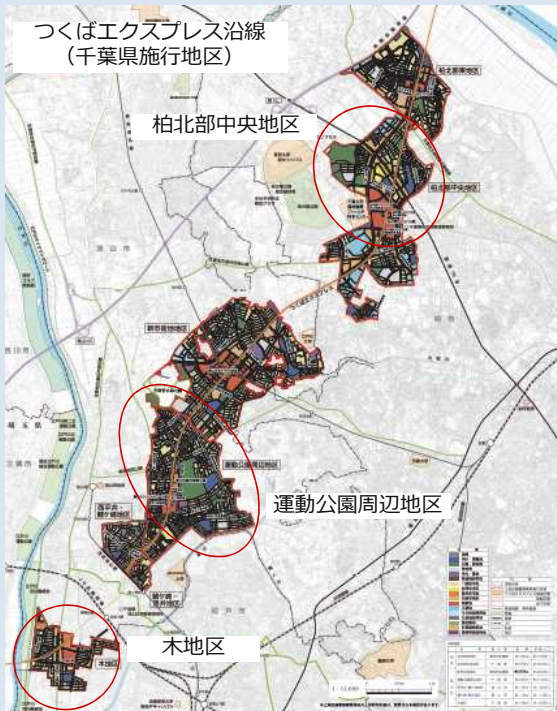
<木更津市金田地区>

平成9年に開通した東京湾アクアラインの着岸地周辺の金田地区では、千葉県の新たな玄関口としてふさわしい地域の形成を図っています。

- ・ 金田西地区

このほか、都市再生機構によるものが1地区、市町村によるものが16地区、組合によるものが17地区、個人によるものが1地区でそれぞれ実施中です。

（平成30年1月現在）



柏北部中央地区



金田西地区